

開化都々逸研究

菊池真一

一、定義

明治初年から明治半ば頃までに刊行された木版都々逸本のうち、タイトルに「開化」の語又はそれに類似の語を冠したものの、あるいはタイトルにそれらの語がなくても主に開化風俗を謡ったものを、「開化都々逸本」とする。銅版本・活版本は除外する。

二、諸本

今までに調査することのできた、一四二点・一〇二種類の開化都々逸本を、題名の五十音順に紹介する。「」内は角書き。
東之花開化都々逸（国会図書館本は雪の巻・月の巻の二冊。筑波大学本は雪の巻のみ。明治十二年。永嶋辰五郎編、小森宗次郎板。）

- 東花開化都々一（筑波大学。丸屋・小林鉄次郎板。）
大一座開化都々一（関西大学。丸屋・小林鉄次郎板。）
開化浮世どゞ一（「瓦斯がなくても」。蓬左文庫。巻一・二・四・五・六の全五冊。松延堂・伊勢屋・大西庄之助板。）
開化浮世どゞ一（「上のお世話の」。関西大学本は「四」とするが、実は巻三・巻四の合本。東大明治新聞雑誌文庫本は巻三。
大阪女子大学本は「九」とするが、実は巻三。明治十三年か。
松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）
開化浮世度々一 八（「色のあやめに」。国文学研究資料館。松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）
開化浮世どゞ一 九（「主の心は」。上田市立図書館花月文庫。
松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）
開化浮世都々一 十（「おまへの心と」。国文学研究資料館 八
1 / 11。松栄堂・大西・伊勢屋為治郎板。）
開化浮世度々一 十（「今宵来るかと」。国文学研究資料館 八
1 / 23 / 2。松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）

開化浮世どゞー（「祈請書なら」。上田市立図書館花月文庫 音楽382。巻一・二・四の三冊合本。但し、巻二の柱は「五」。

松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）

開化浮世都々ー（「ぬしに淡路の」。蓬左文庫。大橋堂・児玉弥七板。）

開化浮世どゞー 四（「馬車にされたも」。弘前市立図書館。板本不明。）

開化浮世どゞー（「ひとがそしろが」。上田市立図書館花月文庫 音楽393。板本不明。）

開化大つゑかつばれぶし葉唄都々ー吹分（国会図書館。初編・二編。明治十三年。長谷川忠兵衛板。）

開化義太夫人都々逸（都立中央図書館東京誌料。明治十四年。吉田小吉板。）

（開化）教訓いろは都々逸（国会図書館。明治十年。吉田小吉板。）

開化京の花（大阪大学忍頂寺文庫。きくや・今井喜兵衛板。）

（開化芸妓）端唄浄るり入都々逸（関西大学。菊池真一。東洋大学。明治十二年。太田屋・武井佐吉板。）

開化芸妓端唄浄るり入都々逸（上田市立図書館花月文庫。国会図書館。上田市立図書館花月文庫本は「第二号」、国会図書

館本は「第三号」となっているが、中身は全く同じもの。明治十二年。太田屋・武井佐吉板。）

開化五もくド、ー（東洋大学。丸鉄板。）

開化さわり入どゞ逸 壱号（筑波大学。辻岡屋文助板。）

開化さわりどゞー 上・下（関西大学・国会図書館は上下巻。東大明治新聞雑誌文庫・筑波大学は上巻のみ。都立中央東京誌料は下巻のみ。明治十三年。木屋・小森宗次郎板。）

開化新作度々逸（国会図書館は壱号から四号まで。菊池真一は壱号のみ。筑波大学は四号のみ。明治十一・十二年。永島福太郎編。加賀吉・堤吉兵衛板。）

開化新作どゞーうらない 上（新城情報牧野）

開化新撰都々逸（国会図書館。都立中央図書館東京誌料 5644/21 5644/100。東大明治新聞雑誌文庫。国会図書館本が最も分量が多い。明治十三年。大橋堂・児玉弥七板。）

開化新撰都々逸 三号（筑波大学。柱は「二」。明治十八年以前か。）

開化新撰都々逸 三号（関西大学。筑波大学。東洋大学。蓬左

文庫。蓬左文庫本には欠あり。筑波大学本の表紙は「四号」。

辻岡屋文助板。）

かいくわ新撰どゝ逸さわり入 四（関西大学 911・65 / K8 / 56。）

かいくわ新撰どゝ逸さわり入 四（関西大学 911・65 / K7 / 25。東洋大学。明治二十七年。近江屋・長谷川園吉板。）

開化新撰はうた上るり入どゝ一（関西大学。国会図書館。明治十一年。木楽斎撰。武井佐吉板。）

〔開化新聞〕浄るり入どゝ一（菊池真一。）

〔開化新聞〕浄るり入どゝ一 二（上田市立図書館花月文庫。）

関西大学。菊池真一。筑波大学。東大明治新聞雑誌文庫。上田市立図書館花月文庫は欠あり。）

〔開歌〕新聞都々一（関西大学。筑波大学。東大明治新聞雑誌文庫。）

開化しむふん都々一 初編（国会図書館。関西大学。菊池真一。）

関西大学本・菊池真一本には欠あり。明治十一年。倉田太助板。）

開化新聞よし原都々一 二編（関西大学。東大明治新聞雑誌文庫。）

開化新文句面白都々一（都立中央図書館東京誌料。金英堂板。）

開化新文句吉原都々一（国会図書館は初編・二編・三編・四編。）

東洋大学は四編のみ。明治十三年。長谷川忠兵衛板。）

開化撰抜都々逸（関西大学。金英堂板。）

開化珍聞都々一（国会図書館。明治十一年。檜葉周平板。）

〔開化〕辻筮都々一 乾（国会図書館。明治十四年。室直三郎板。）

開化都々一（「ういもつらいも」。国会図書館。明治二十年。長谷川園吉板。）

開くわとゝ逸（「梅とさくらの」。東大新聞雑誌文庫。都立中央図書館東京誌料。）

開花どゝ一（「ゑんもゆかりも」。関西大学。）

〔開化〕都々逸（「思ふお人が」。関西大学。）

開化度々一 一号（「究理黄瓜と」。都立中央図書館東京誌料。）

明治十一年。吉田小吉板。）

開化度々一（「心がらとて」。二号か。都立中央図書館東京誌料。）

明治十一年。吉田小吉板。）

開化度々一（「通ふ廓の」。四号か。都立中央図書館東京誌料。）

明治十一年。吉田小吉板。）

開化都々一（「気高いはづだよ」。関西大学。筑波大学。大橋堂

・児玉弥七板。）

開化都々一 三編（「ザンザめく」。関西大学。菊池真一。菊池

真一本は部分。大倉孫兵衛板。）

開化都々一（「親にやうらまれ」。筑波大学。島鮮堂・綱島亀吉板。）

開化都々一 三（「ぜひも内務と」。都立中央図書館東京誌料。

明治二十年。長谷川園吉板。）

開化都々いつ（「恋の闇路へ」。国会図書館。明治十三年。大倉孫兵衛板。）

開化都々一（「腹に実の」。筑波大学。明治十三年。錦耕堂・山口屋・荒川藤兵衛板。）

開化都々いつ甲ノ巻・開化どゞ逸乙号（「さいじつに」。関西大学。新城情報牧野。新城情報牧野は「甲ノ巻」のみ。明治十三年。金松堂・辻岡文助板。）

開化都々逸（「ぬしが水なら」。関西大学。）

開化都々一（「ぬしに淡路の」。関西大学。筑波大学。大橋堂・

児玉弥七板。）

開化どゞいつ（「ぬしの来るのを」。都立中央図書館東京誌料。

国器堂板。）

開化都々一（「ねがひ叶ふは」。筑波大学。大橋堂・児玉弥七板。）

開化都々逸（「ねがひは通らず」。国会図書館。明治十四年。多賀甚五郎板。）

開化都々一（「乗るも曳くのも」。筑波大学。蓬左文庫。大橋堂

・児玉弥七板。）

開化どゞ一 巻号・二号（「円き地球に」。国会図書館。都立中央図書館東京誌料。都立中央図書館東京誌料本は巻号のみ。明治十二年。小森宗次郎板。）

開化どゞ一 三（「勤めする身で」。菊池真一。）
（開化都々逸）（「私しや旧弊」。表紙欠。他本と合冊。弘前市立図書館。）

開化どゞいつしんぶん（筑波大学。綱島亀吉板。）

（開化）都々一ツ声くらべ（香川大学神原文庫。明治八年。）

開化花揃都々逸（国会図書館。明治十五年。尾崎民太郎板。）

開化はやり都々逸（菊池真一。山藤板。）

（開化）芳此 二篇・三篇（大阪府立中之島図書館。明治十年。石川和助板。）

開化よし此 四篇（蓬左文庫。石川和助板。）

開化よし此集（大阪大学忍頂寺文庫。関西大学。関西大学本は部分。石川和助板。）

（開化）よし原都々一（筑波大学。）

（懐中）開化度々一（国会図書館。明治十一年。吉田小吉板。）
新作開化都度いつ 甲の巻（東大明治新聞雑誌文庫。山藤板。）

（新作）開化はうた（菊池真一。）

新作別品都々一（菊池真一。松延堂・大西・伊勢屋庄之助板。）
〔新版開化〕都々逸（東洋大学。）

新版開化どゞ一 九（都立中央図書館東京誌料。）

しん板開化別品どゞ一（東大明治新聞雑誌文庫。三・四・六合冊。）

新版開化別品どゞ一 五（関西大学。）

新版開化別品度々一 十（菊池真一。）

〔新版開化〕文句入都々一（国会図書館。明治十九年。山口亀吉板。）

新ぱん詩入開化都々一（東大明治新聞雑誌文庫。金松堂・辻岡文助板。）

新ぱんどゞいつ（京都大学谷村文庫。群芳堂・車平次郎板。）

新文句開化都々一 第一号（国会図書館。明治十四年。清水屋・長谷川作次郎板。）

新令都度逸 初編（香川大学神原文庫。菊池真一。国会図書館。）

東大明治新聞雑誌文庫。都立中央図書館東京誌料。都立中央図書館東京誌料本は外題「語一真流行どゞ一」。明治三年。竹堂

梅兄著。松延堂・伊勢屋庄之助板。）

新令都度逸 三編（弘前市立図書館。墨塘洒人・竹堂梅兄著。）

松延堂板。）

新令都度逸 四編（香川大学神原文庫。京都大学谷村文庫。墨塘洒人・竹堂梅兄著。松延堂・伊勢屋庄之助板。）

〔酔興漫戯〕声くらべ 初編（香川大学神原文庫。中之島図書館。明治七年。森本屋板。）

団々と志此（関西大学。明治十年。前田喜兵衛板。）

団々芳此（菊池真一。綿屋喜兵衛板。）

珍笑团团都々一（東大明治新聞雑誌文庫。明治十一年。若栄堂・多賀甚五郎板。）

珍笑団全都々一 四号（関西大学。明治十一年。多賀甚五郎板。）

東京じまんどゞいつ（東大明治新聞雑誌文庫。）

当世都々一真盛（筑波大学。菊池真一。丸屋・小林鉄次郎板。）

浪花の梅（国学院高藤田小林。大和屋清兵衛板。）

葉うた都々いつ四季の戯れ 一号・二号（東大明治新聞雑誌文庫。明治十三年。長谷川忠兵衛板。）

文明開化とゞいつ（筑波大学。山藤板。）

明治新ぱんどゞ一（東大明治新聞雑誌文庫。明治十四年。佐野金之助板。）

文句入開化どゞいつ（国会図書館。明治二十年。萩原新七板。）

文句さわり入開花都々一（東洋大学。）

横はまお髭都々逸（福井市立図書館。蓬左文庫。）

流行新令どゝ一（菊池真一。東大明治新聞雜誌文庫。都立中央図書館東京誌料。菊池真一本には欠あり。竹堂梅兄著。松延堂板。）

三、開化語

開化都々逸に現れた主な開化語（新風俗・新概念を現す語）を、多く現れる順に見る。

「写真」「しゃしん」「しや真」「写しん」

五十作品に延べ百六回出現している。圧倒的に多い。ほぼ半数の作品に出現していることになる。「紙取写真」は六作品に六回出現。

「時計」「とけい」「時辰」「時鳴鐘」

四十一作品に延べ六十二回出現。

「開化」「かいか」「かいくわ」

三十八作品に延べ七十二回出現。

「蒸気」「じやうき」「蒸気車」「蒸気汽車」

三十一作品に延べ四十三回出現。「陸蒸気」は十五作品に延

べ十七回出現。

「硝子」「がらす」「ガラス」「瓦刺斯」「ガラスしやうじ」「がらすせうじ」「カラスせうじ」「ガラス障子」「ガラスの硝子」「ぐはらすの硝子」「硝子のしやうじ」「硝子はり」「硝子張」「ガラスまど」「がらすまど」「がらす窓」「ガラス窓」「ぐわらすまど」「硝子窓」「瓦羅斯窓」

二十七作品に延べ三十七回出現。

「人力車（じんりきしや・じんりきぐるま）」「人力」「人力しや」

二十五作品に延べ二十七回出現。「車」は十五作品に十五回出現。

「新聞」「しんぶん」「新ぶん」

二十五作品に延べ三十九回出現。

「瓦斯」「ぐわす」「瓦斯燈」「がすとう」「がす燈」「くわすとう」「硝子燈」「瓦斯らんぷ」

二十四作品に延べ三十六回出現。

「馬車」「ばしや」「馬しや」

二十五作品に延べ三十回出現。

「権」「ごん」「ゴン」「権妻」「ごんさい」「ごん妻」「ごんさいさん」「権妻さん」「ごんのかみ」

二十三作品に延べ三十二回出現。

「文明開化」「文明進歩」「分迷怪花」

二十二作品に延べ三十六回出現。

「風船」「風せん」「風舟」

二十作品に延べ二十八回出現。

「印紙」

二十一作品に延べ二十六回出現。

「ざんぎり」「斬髪」「散髪(ざんぎり・さんぱつ)」「髪鋏」「ざ

んぎりあたま」「ザンギリ天窓」「ザンギリ頭」「ざん斬あたま」

「散髪あたま」「散髪天窓」「髪鋏天窓」「サンパツ」「さんぱつ」

二十作品に延べ二十四回出現。

「猫」「ねい」

十九作品に延べ三十五回出現。次の「鯰」と対で登場するこ

とが多い。

「鯰」「なまづ」

十九作品に延べ三十一回出現。

「新聞紙」「しんぶんし」「新ぶんし」「新ぶん紙」

十八作品に延べ二十三回出現。今の「新聞」の意味である。

「ランプ」「らんぷ」「らむぷ」「洋燈」

十八作品に延べ二十四回出現。

「夜学」「やがく」「夜学校」

十六作品に延べ二十回出現。

「電信機」「伝信機」「でんしんき」「伝しん機」「電しん機」

十六作品に延べ二十五回出現。

「電信」「でんしん」

十六作品に延べ十九回出現。

「生徒」「せいと」

十五作品に延べ十八回出現。

「規則」「キソク」

十五作品に延べ十八回出現。

「アレキ」「越力」「アレキテル」「エリキ」

十五作品に延べ十八回出現。

「陸蒸気」「おかじやうき」「おか蒸気」「陸じやう気」「陸娼妓」

十五作品に延べ十七回出現。「蒸気」は三十一作品に延べ四

十三回出現。

「ズボン」「ツボン」「づぼん」

十五作品に延べ十七回出現。

「アイウエオ」「アイウエヲ」「アイウエオ」「アイウエヲ」(五

音)

十五作品に延べ十七回出現。「いろは」との対照。

「車」「くるま」。「人力車」は二十五作品に延べ二十七回出現。

十五作品に延べ十五回出現。

「究理」

十五作品に延べ十五回出現。

「煉瓦」「れんが」「れんぐは」「れんぐわ」「練瓦」「れんがせき」「れんぐわせき」「れんぐわ石」「煉瓦石」

十五作品に延べ十六回出現。

「郵便」「ゆうびん」「ゆう便」「郵便」

十四作品に延べ十五回出現。

「てりがらふ」「てれがらふ」「電信機」「TELEGRAPH」

「天利加羅夫」「伝信機」

十三作品に延べ十七回出現。

「筒袖(つつそで)」「つつっぽう()」「つゝうぼう」「つゝッぽう」

十三作品に延べ十六回出現。

「日の丸旗」「日の丸はた」「日の丸ばた」「日の丸の旗」「日のまる旗」「日のまるの旗」「日の丸旗章」

十三作品に十三回出現。

「指輪」「指環」「ゆびは」「ゆびわ」「ゆび輪」

十二作品に延べ十四回出現。

「汽車」「気車」「きしゃ」

十二作品に延べ十三回出現。

「博覧会」「はくらんくわい」

十二作品に十二回出現。

「サシスセソ」「さしすせそ」「サセスセソ」(五音)

十二作品に十二回出現。

「蒸気」「じやうき」「蒸気船」「じよふ気舟」「蒸気せん」「じやうきのふね」「川じやうき」

十二作品に延べ十五回出現。

「汽船」「気船」「気舟」「汽せん」

十二作品に延べ十三回出現。

「車夫」「しゃふ」

十二作品に十二回出現。「くるまひき」は五作品に延べ五回

出現。

「裁判」「裁ばん」

十一作品に延べ十三回出現。

「靴」「くつ」

十一作品に延べ十三回出現。

「シャツポ」「しゃつぽ」「シャツプ」「帽子」(シャツポ)

十一作品に延べ十二回出現。

「原告」

十一作品に十一回出現。

「漢語」「かん語」「かんじ」

十一作品に十一回出現。

「地球」「ちきう」

十作品に延べ十四回出現。

「蝙蝠」「かうもり」「蝙蝠傘」「かうもりがさ」「かふもり傘」

「蝙蝠もりがさ」「蝙蝠がさ」

十作品に延べ十二回出現。

「端書」「はがき」「はがきゆうびん」「端がき」

十作品に延べ十二回出現。「郵便はがき」は二作品に二回出

現。

「巻煙草」「まきたばこ」「まき煙草」「巻たばこ」

十作品に延べ十二回出現。

「横文字」「横もじ」

十作品に十回出現。

「恵比寿」「蛭子」「ゑびす」「笑寿紙」「恵比寿さま」(紙幣の

こと)

九作品に延べ十四回出現。「金札」は八作品に延べ九回出現。

「札」は七作品に七回出現。「紙幣(かね・かみ・しへい)」は

八作品に八回出現。

「石盤」「せきばん」「石ばん」

九作品に延べ十回出現。

「鑑札」「かん札」「かんさつ」

九作品に延べ十回出現。

「ビール」「ビイル」「ビール酒」「ビイル酒」「ビールさけ」

九作品に九回出現。

「はりがね便り」「はりがねだより」「針金だより」「針金便り」

「電信線」「銅線便」

九作品に九回出現。0909

「二等親」「二等しん」「二とふしん」

八作品に延べ十回出現。

「金札」(紙幣のこと)

八作品に延べ九回出現。「恵比寿」は九作品に延べ十四回出

現。「札」は七作品に七回出現。「紙幣(かね・かみ・しへい)」

は八作品に八回出現。

「はりがね」「伝信機」

八作品に延べ九回出現。

「西洋紙」「せいやうし」

八作品に八回出現。

「西洋姿」「せいやうすがた」「西洋すがた」

八作品に八回出現。

「紙幣（かね・かみ・しへい）」

八作品に八回出現。「恵比寿」は九作品に延べ十四回出現。「金

札」は八作品に延べ九回出現。「札」は七作品に七回出現。

「学校」

八作品に八回出現。

「開化人」

八作品に八回出現。

「カキクケコ」（五音）

八作品に八回出現。

「和親」

七作品に七回出現。

「万国図」

七作品に七回出現。

「巡查」「じゅんさ」

七作品に七回出現。

「札」「さつ」「紙幣（さつ）」「さつびら」「札びら」「紙幣びら」

七作品に七回出現。「恵比寿」は九作品に延べ十四回出現。「金

札」は八作品に延べ九回出現。「紙幣（かね・かみ・しへい）」

は八作品に八回出現。

「議論」

七作品に七回出現。

「証券印紙」

七作品に七回出現。

「掛時計」「かけ時計」

七作品に七回出現。

「コレラ」「虎別刺」「虎烈刺」「コレラ病」

七作品に七回出現。

「日曜日」「日やう日」

六作品に延べ八回出現。

「読売新聞」「よみうり新ぶんし」「よみうり新聞紙」「読うり

新聞紙」「読売しんぶんし」「読売新聞紙」「読売る新聞紙」

六作品に延べ八回出現。

「摺附木」「すり附木」「すりつけぎ」「すりつけ木」「すり附木」

「すりみをん」

六作品に延べ七回出現。

「書生」「諸生」

六作品に延べ七回出現。

「懐中時計」「懐中どけい」「かいちうどけい」

六作品に延べ七回出現。

「兵庫帯」「兵子おび」「兵子帯」

六作品に六回出現。

「二重抵当」

六作品に六回出現。

「男女同権（だんじょどうけん・なんによどうけん）」「なんによどうけん」「なんによ同けん」

六作品に六回出現。

「石筆」「せきひつ」「せき筆」

六作品に六回出現。

「石炭」「せきたん」

六作品に六回出現。

「税金」

六作品に六回出現。

「自由の権」「自由の権理」

六作品に六回出現。

「紙取写真」「かみとり写真」「紙とり写しん」「紙とり写真」

六作品に六回出現。「写真」は五十作品に延べ百六回出現。

「合乗」「合乗ぐるま」「あいのりぐるま」

六作品に六回出現。

「教師」「きやうだうし」

六作品に六回出現。

「とんび」「トンビ」

六作品に六回出現。

「教師」「きやうし」

六作品に六回出現。

「一ツべつゝい」

六作品に六回出現。

「マンテル」「まんてる」

六作品に六回出現。

「ポンプ」「PUMP」

六作品に六回出現。

「ドンタク」「日曜日」「休日」「日曜」

六作品に六回出現。

「お髭」「おひげ」「ひげ」

六作品に六回出現。

「新聞屋」「新聞や」

五作品に延べ九回出現。

「眼鏡」「めがね」

五作品に延べ七回出現。

「寒暖計」「寒暖けい」

五作品に延べ七回出現。

「記者」

五作品に延べ六回出現。

「洋学」

五作品に五回出現。

「郵便状」「郵便だより」「ゆうびんだより」

五作品に五回出現。

「罰金」「ばつぎん」

五作品に五回出現。

「地球儀」

五作品に五回出現。

「訴訟」

五作品に五回出現。

「西洋飾り」「西洋かざり」

五作品に五回出現。

「西洋床」「西洋どし」「せいようどし」

五作品に五回出現。

「車ひき」「くるまひき」「車夫」

五作品に五回出現。「車夫（しゃふ）」は十一作品に十一回出

現。

「権利」「権理」

五作品に五回出現。

「区学校」

五作品に五回出現。

「牛肉（ぎゅうにく・うし）」

五作品に五回出現。

「義務」

五作品に五回出現。

「開化ぶり」

五作品に五回出現。

「めねこ」「女猫」

五作品に五回出現。

「ミシン」

五作品に五回出現。

「ツドン」「つどん」「ツドンの音」

五作品に五回出現。

「マッチ」「早附木」「MATCH」

四作品に延べ七回出現。「早附木（はやつけぎ）」は四作品に

四回出現。

「地獄」「ぢごく」「地獄苦」

四作品に延べ五回出現。

「ステーション」「ステーションション」

四作品に延べ五回出現。

「洋服」

四作品に四回出現。

「帽子」

四作品に四回出現。

「病院」

四作品に四回出現。

「長靴」

四作品に四回出現。

「探訪」「探訪者」

四作品に四回出現。

「替換（かわせ）」「替損」

四作品に四回出現。

「送籍」

四作品に四回出現。

「早附木」「はやつけ木」

四作品に四回出現。「マッチ」は四作品に延べ七回出現。

「石炭油」「石炭あぶら」

四作品に四回出現。

「人力車夫」「人力車曳」

四作品に四回出現。

「新聞社」「新ぶん社」

四作品に四回出現。

「招魂社」「招こんしゃ」

四作品に四回出現。

「ゴムぐつ」「ゴムの靴」

四作品に四回出現。

「かはじやうき」「川汽船」

四作品に四回出現。

「代言」「代言人」「代言者」

四作品に四回出現。

「ペラ」「ペラ札」「ペラの糸びす」「ペラの紙」

三作品に延べ五回出現。

「教員」

三作品に延べ四回出現。

「ドン」「正午」

三作品に延べ四回出現。

「讓謗律」「ざんぼつりつ」

三作品に三回出現。

「分析」「分せき」

三作品に三回出現。

「分署」

三作品に三回出現。

「葡萄牙」「ホルトガル」

三作品に三回出現。

「被告」「被告人」

三作品に三回出現。

「半ドンタク」

三作品に三回出現。

「舶来」

三作品に三回出現。

「内務」

三作品に三回出現。

「土曜日」「土曜」

三作品に三回出現。

「電信線」「伝信線」「電しんせん」

三作品に三回出現。

「伝話機」

三作品に三回出現。

「天長節」

三作品に三回出現。

「鉄道」

三作品に三回出現。

「鉄の橋」

三作品に三回出現。

「説諭」

三作品に三回出現。

「水素」「好素」

三作品に三回出現。

「新聞配り」

三作品に三回出現。

「女紅場」

三作品に三回出現。

「諸税」

三作品に三回出現。

「出訴」

三作品に三回出現。

「臭気止」

三作品に三回出現。

「自主の権」「自主自由」

三作品に三回出現。

「磁石」

三作品に三回出現。

「事務所」

三作品に三回出現。

「香水しやぼん」「香しやぼん」

三作品に三回出現。

「公債証書」「ごうさい証書」

三作品に三回出現。

「五色ガラス」「五色がらす」

三作品に三回出現。

「軽気球」

三作品に三回出現。

「しやしん鏡」「写しん鏡」

三作品に三回出現。

「銀行」

三作品に三回出現。

「ペンキ」

三作品に三回出現。

「宮内」

三作品に三回出現。

「帰県」「返県」

三作品に三回出現。

「外務」

三作品に三回出現。

「会議」

三作品に三回出現。

「違式」

三作品に三回出現。

「暗射絵図」

三作品に三回出現。

「らつぱ」「喇叭」

三作品に三回出現。

「ステツキ」

三作品に三回出現。

「くんどうし」

三作品に三回出現。

「シャボン」「シャボン」

二作品に延べ五回出現。

「お廻りさん」「おまはりさん」「巡査さん」

二作品に延べ三回出現。

「洋酒」

二作品に二回出現。

「洋紙」

二作品に二回出現。

「洋語」

二作品に二回出現。

「郵便はがき」「ゆうびんはがき」

二作品に二回出現。「端書」は九作品に延べ十一回出現。

「宝丹」

二作品に二回出現。

「沸騰水」

二作品に二回出現。

「沸騰散」「ふつとつ散」

二作品に二回出現。

「葡萄酒」「ぶびぶびけ」

二作品に二回出現。

「判事」

二作品に二回出現。

「発明」

二作品に二回出現。

「投票（いれふだ）」

二作品に二回出現。

「伝染」

二作品に二回出現。

「辻らんぶ」「つじランプ」

二作品に二回出現。

「大教師」

二作品に二回出現。

「船」「ふね」

二作品に二回出現。

「西洋料理」

二作品に二回出現。

「新曆（にいごよみ）」「新いごよみ」

二作品に二回出現。

「新聞記者」

二作品に二回出現。

「新銅貨」

二作品に二回出現。

「女工」

二作品に二回出現。

「書生羽織」

二作品に二回出現。

「士族」

二作品に二回出現。

「国の絵図」「国の多づ」

二作品に二回出現。

「月曜日」「月やう日」

二作品に二回出現。

「金がは時計」

二作品に二回出現。

「学業社会」

二作品に二回出現。

「会議所」

二作品に二回出現。

「華族」

二作品に二回出現。

「英語」

二作品に二回出現。

「運動」

二作品に二回出現。

「椅子」

二作品に二回出現。

「レトル」

二作品に二回出現。

「ルウデサツク」「ルーテサツク」

二作品に二回出現。

「ラムネ」

二作品に二回出現。

「ゆびわのとりかわせ」

二作品に二回出現。

「ヤイユエヨ」

二作品に二回出現。

「まるばをり」

二作品に二回出現。

「まみむめも」「マミムメモ」(五音)

二作品に二回出現。

「ホイス」

二作品に二回出現。

「フラフ」

二作品に二回出現。

「ハヒフヘホ」(五音)

二作品に二回出現。

「テーブル」

二作品に二回出現。

「つりらんぶ」「釣LAMP」

二作品に二回出現。

「ツボンマンテル」

二作品に二回出現。

「タチツテト」(五音)

二作品に二回出現。

「そつげふ」

二作品に二回出現。

「せいよう」

二作品に二回出現。

「しやぼん玉」「しやぼん球」

二作品に二回出現。

「ぎんかう紙へい」

二作品に二回出現。

「BANK」「銀行(バンク)」

二作品に二回出現。

三、開化都々逸

開化都々逸については、西沢爽著『日本近代歌謡史 上』(平成二年。桜楓社)に詳しい。同書の次の章には、開化都々逸の様々が詳しく論じられている。

第十七章 明治五年の新作別品都々一

第十八章 『開花浮世どゞ一』に見る明治初期開化の諸

相

第十九章 ガスとラムプとザンギリと

第二十章 新吉原の洋風廓

第二十一章 鯰、権妻、猫時代

第二十二章 『団々誉志此』と都々逸の剽窃盗作

この第二十二章からヒントを得て、同一都々逸・類似都々逸を幾つか拾ってみた。六つ以上例のあるものを挙げる。

煎じて飲ませたい（十一例）

文明開化に進まぬものは横文字煎じて吞せたい

（『懐中』開化都々一 一号『明治十一年二月二十日御届』）

文明開化に進まぬものは横文字煎じて吞せたい

（『開化度々一 一号』明治十一年三月廿七日御届）

開化知らずの野蛮な奴は新聞煎じて飲せたい

（『開化新作度々逸 貳』明治十一年十月十日御届）

やばなこといふわからぬ人に横文字せんじてのませたい

（『開化都々いつ 甲ノ巻』明治十三年刊か）

開化知らずの旧弊人にやしんぶん煎じて飲せたい

（『開化浮世どゝ一 九』刊年不明）

開化知らずの旧弊人にやしんぶん煎じて飲せたい

（『開化浮世どゝ一 五』刊年不明）

開化知らずの旧弊人にやしんぶん煎じて飲せたい

（『しんぱん開化べつぴんどゝ一 六』刊年不明）

文明開化を知らないものはしんぶんせんじてのませたい

（『開化』都々逸『刊年不明』）

文明開化に進まぬ奴に新聞せんじてのませたい（都川歌六）

（『開化都々逸 三編』刊年不明）

文明開化に進まぬ者は横文字三煎じて飲せたい

（『東京じまんどゝいつ』刊年不明）

文明開化に進まぬ者は横文字三煎じて飲せたい

（『新板開化別品度々一 十』刊年不明）

究理（十例）

究理黄瓜と言んすけれど河童野郎の屁房学者

（『懐中』開化都々一 一号『明治十一年二月二十日御届』）

究理黄瓜と言んすけれど河童野郎の屁房学者

（『開化度々一 一号』明治十一年三月廿七日御届）

究理木瓜と言んすけれど河童野郎の屁房学者

（『開化しむふん都々一 初編』明治十一歳四月廿日御届）

究理木瓜と言んすけれど河童野郎の屁房書生

（『開化新作度々逸 壹』明治十一年十月十日御届）

究理々々となまもの知りな河童野郎の屁尾学者

（『開化都々一 第貳号』明治十二年三月十一日御届）

究理ノ、と言んすけれど河童野郎の屁尾学者

（『新板開化別品度々一 十』刊年不明）

究理ノ、と口にはいへど河童野郎のへば学者 麗々亭柳橋

（『開化都々一 三編』刊年不明）

究理ノ、と言んすけれど河童野郎の屁尾学者

(『開化浮世どゞ一』刊年不明)

究理ノ、と言んすけれど河童野郎の屁尾学者

(『開化浮世度々一 一』刊年不明)

究理ノ、と言んすけれど河童野郎の屁尾学者

(『東京じまんとゝ逸』刊年不明)

意気なザンギリ(十例)

意気なざんぎり小いきな坊主髷の有のはニタごゝろ

(『「懐中」開化度々一 二号』明治十一年二月二十日御届)

意気なざんぎり小いきな坊主髷の有のはニタごゝろ

(『開化度々一』明治十一年三月廿七日御届)

いきな髪缺(ざんぎり)小いきな坊主髷のあるのはニタごゝろ

(『開化しむふん都々一 初編』明治十一年四月廿日御届)

いきな散髪(ざんぎり)小いきな坊主まげのあるのはニタごゝろ

(『開化新作度々逸』明治十一年十月十日御届)

いきな散髪小いきな坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『開化新撰都々逸』明治十三年十月十日御届)

意気な斬髪小意気な坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『新板開化別品度々一 十』刊年不明)

意気な斬髪(ざんぎり)小意気な坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『開化浮世どゞ一』刊年不明)

意気な斬髪(ざんぎり)小意気な坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『開化浮世度々一 一』刊年不明)

意気な斬髪(ざんぎり)小意気な坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『東京じまんどゝいつ』刊年不明)

いきなサンパツ小いきな坊主一ツべつゝいニタごゝろ

(『開化都々逸』刊年不明)

万国図(十例)

色の世界と言のも道理五しき色どる万国図

(『「懐中」開化度々一 二号』明治十一年二月二十日御届)

色の世界と言のも道理五しき色どる万国図

(『開化度々一』明治十一年三月廿七日御届)

色の世界と言のが無理か五しき色採る万国図

(『開化しむふん都々一 初編』明治十一年四月廿日御届)

色の世界と言ふのは無理か五しき彩色(いろどる)万国図

(『開化新作度々逸 巻』明治十一年十月十日御届)

色のつき世と言ふのが無理か五しき色どる万国図 月の家桂寿

(『開化都々いつ』明治十三年六月二十六日御届)

色の世界と言ふのも道理五しき色どる万国図

(『開化浮世度々』 一『刊年不明』)

色の世界と言ふのも道理五しき色どる万国図

(『東京じまんと逸』 刊年不明)

いろの世界と言ふのも道理五しき色どる万国図

(『開化都々逸』 刊年不明)

文明開化の西洋でさへも色で分たる国の絵図

(『珍笑团团都々』 明治十一年十一月二十六日御届)

文明開化の西洋でさへも色でわけたる国の絵図

(『開化新撰都々逸』 明治十三年十月十日御届)

時計(九例)

私しや鎖の継目(つなぎめ)かたく主は時計のくるひがち

(『珍笑团团都々』 明治十一年十一月二十六日御届)

私やくさりのつなぎめ堅く主は時計のくるひがち

(『開化新撰はうた上るり入ど』 明治十一年十一月廿八日

御届)

私しや鎖の継ぎ目堅く主は時計の狂ひがち

(『開化新作ど』 三号『明治十二年五月十三日御届』)

私やくさりのつなぎめ堅く主は時計のくるひがち

(『開化芸妓』 端唄浄るり入都々逸』 明治十三年五月日御届)

私しや鎖の継目(つなぎめ)堅く主は時計の狂ひがち

(『開化浮世ど』 一『刊年不明』)

私しや鎖の継目(つなぎめ)堅く主は時計の狂ひがち

(『開化浮世ど』 一『刊年不明』)

私しや鎖の継目堅く主は時計の狂ひがち

(『東京じまんと逸』 刊年不明)

わたしや鎖のつなぎ目かたくぬしはとけいのくるひがち

(『団々志此』 明治十年月日御届)

わたしやくさりのつなぎめたかくぬしはとけいでくるひがち

(『かいくわ新撰ど』 逸さわり入 四『刊年不明』)

文明開化(九例)

文明開化で規則は替るかはらないのは恋のみち

(『懐中』 開化都々』 一号『御届明治十一年二月二十日』)

文明開化で規則は替るかはらないのは恋のみち

(『開化度々』 一号『明治十一年三月廿七日御届』)

文明開化で規則がかわる替らないのが恋の路

(『開化新作度々』 七号『明治十一年十月十日御届』)

文明開化で規則が替るかはらないのは恋のみち

(『開化ど』 七号『明治十二年三月十一日御届』)

文明開化で規則が替るかはらないのが恋の道 橋屋橋の介

(『開化都々いつ』 明治十三年六月二十六日御届)

文明開化で規則がかはるかわらないのは恋のみち

(『新作開化都度いつ 甲の巻』 明治十三年刊か)

文明開化で規則が替る変らせたくない主の胸

(『開化浮世度々一 十』 刊年不明)

文明開化で規則が替る変らせたくない主の胸

(『新ばんどゝいつ』 刊年不明)

文明開化で規則が替るかはらないのが恋のみち

(『東京じまんとゝ逸』 刊年不明)

教導師(八例)

赤い仕かけで迷わすものは色の夜学のきやうだうし

(『開化都々逸』 刊年不明)

赤い仕掛で迷わす者は色の夜学の教導師

(『開化浮世どゞ一 四』 刊年不明)

赤い仕かけで迷わす女郎は色の夜学の大教師 よし原すみ

(『開化都々いつ』 明治十三年六月二十六日御届)

赤い仕かけでまよはす者は色の夜学の教導師

(『開化新作度々逸 貳』 明治十一年十月十日御届)

赤い上着は恋路の教師色の学校貸ざしき

(『懐中開化都々一 三号』 明治十一年三月廿七日御届)

赤い仕かけで惑わす者は色の夜学の教師方

(『開化浮世都々一 十』 刊年不明)

赤い仕掛で迷わす者は色の夜学の教導師

(『東京じまんどゝいつ』 刊年不明)

赤い仕掛で迷わす者は色の夜学の教導師

(『しんばん開化別品どゞ一 三』 刊年不明)

写真(七例)

俣に成なら写真に取てぬしに見せたい胸のうち

(『開化新作どゞいつ 三号』 明治十二年五月十三日御届)

俣に成なら写真にとつて主に見せたい胸のうち 朝寐坊小夢

(『開化都々いつ』 明治十三年六月二十六日御届)

俣に成なら写真にとつて主の姿をうでまもり

(『開化浮世度々一 六』 刊年不明)

俣に成なら写真に取て主に見せたい胸のうち

(『東京じまんどゝ逸』 刊年不明)

俣に成なら写真が取て主に見せたい胸のうち

(『新板開化別品都々逸 四』 刊年不明)

まゝになるなら写真にとつて君に見せたや我こゝろ

(『「開化」都々逸』刊年不明)

まゝになるならこゝろをわつて「長うたきせう」(おもふこと叶わねばこそうき世とはよくあきらめたむりなことかみやほとけがうそつくならばほれたせうこをどうかこかいな)写して見せたぬ此写真

(『開化五もくどく』刊年不明)

蒸気や電信機(七例)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機

(『珍笑都々一団団 四号』明治十一年十一月二十六日御届)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機(てりがらふ)

(『開化新作どく』三号』明治十二年五月十三日御届)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機

(『開化新撰都々逸』明治十三年十月十日御届)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機(てりがらふ)

(『「新版開化」文句入都々一』明治十九年五月廿七日御届)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機(てりがらふ)

(『開化浮世どく』九』刊年不明)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機(てりがらふ)

(『開化浮世どく』五』刊年不明)

開化する程恋には便利遠けりや蒸気や電信機(てりがらふ)

(『しんばん開化べつびんどく』六』刊年不明)

海山越えても(七例)

海山越ても便りは出来る切れちやいやだとでんしんき

(『「開化芸妓」端唄浄るり入都々逸』明治十一年十一月廿八日御届・明治十二年五月日刊)

海山こへてもかわらぬこゝろ切れちやいやだよでんしんき

(『団々と志此』明治十年御届)

海山越ても便りの出来る切れちやいやだと伝信機(でんしんき)

(『開化新撰都々逸』明治十三年十月十日御届)

海山こへても便りができるきれちやいやだよ電しんき

(『新文句開化都々一 第一号』明治十四年五月十一日御届)

海山へだてゝくらしてゐても心はきれないてれがらふ

(『「開歌」新聞都々一』刊年不明)

海山へだてゝくらしてゐても「清元山かへり」四ツ谷で始めて逢たときすいたお方と思ふた?因果ゑんの糸車」心は切ないてれがらふ

(『「開化新聞」浄瑠璃入どく』二』刊年不明)

海やまへだてゝくらしてゐれどこゝろきれないてれがらふ

(『開花よし此集』刊年不明)

はりがねが口を聞よな調法な代なら写真に苦ぜつを聞せたい

(『東京じまんと逸』刊年不明)

はりがね(七例)

神頼み(七例)

はりがねが口を聞よな世の中なれば写真にくぜつが言せたい

出雲の国へと電信掛けて妹背むすびを神だのみ

(『懐中』開化度々一 二号 明治十一年二月二十日御届)

(『開化新作ど』いつ 三号 明治十二年五月十三日御届)

はりがねが口を聞くよな世の中なれば写真にくぜつが言せたい

出雲の社へ電信かけて妹背結びの神だのみ ふじ松若辰

(『開化度々一』明治十一年三月廿七日御届)

(『開化都々いつ』明治十三年六月二十六日御届)

はりがねが口を聞よな開化の世なら写真に苦舌を言せたい

出雲のやしろへでんしんかけて妹背むすびし神だのみ

(『開化新作度々逸』明治十一年十月十日御届)

(『開化新撰都々逸』明治十三年十月十日御届)

はりがねが口をきくよな調法な代なら写真にくぜつが聞せたい

出雲の国へと電信かけて妹背結びを神頼み

すきや丁はな

(『新板開化別品ど』一 五 刊年不明)

(『開化都々いつ』明治十三年六月二十六日御届)

出雲のやしろへでんしかけて妹背むすびの神だのみ

はりがねがくちをきくよふなよなれば「()???()」(系こふ

(『開化都々逸』刊年不明)

しやうとておすがたをゑにはかゝせはせぬものをたまいかへす

出雲の国へと電信かけて妹背結びて神頼み

はんごんかうめいぐはのちからもあるならばかわいとたつた一

(『東京じまんど』いつ 刊年不明)

トことの「しやしんにくぜつをいわせたい

出雲の国へとでんしんかけていもせ結びの神だのみ

(『文句入開化ど』いつ 明治二十年十一月八日御届)

(『団々芳此』刊年不明)

はりがねが口を聞よな調法な代なら写真に苦ぜつを聞せたい

(『開化浮世度々一 二』刊年不明)

二重抵当(六例)

印紙はつたるわたしのからだ二重抵当にやなりはせぬ

(『団々と志此』明治十年月日御届)

印紙貼たるわたしの身体二重抵当にやなりはせぬ

(『珍笑団団都々』明治十一年十一月二十六日御届)

印紙はつたる私がかからだ二重抵当になりはせぬ

(『開化新文句吉原都々』三篇『明治十三年二月十八日御届』)

印紙はつたる私の体だ二重抵当にや成はせぬ

(『開化』辻笹都々『乾』明治十四年巳七月十八日御届)

印紙はつたる私のかからだ二重抵当になりはせぬ

(『開化』よし原都々『二遍』刊年不明)

印紙はつたる私のかからだ二重抵当になりはせぬ

(『開化新聞』よし原都々『二遍』刊年不明)

以上十三首が六例以上見られるものである。